

仕 様 書

件名：ツチクジラ標本補修

概要：

全長 9.45m×奥行 2.5m×高 2.0mのツチクジラ剥製標本

東日本大震災により被災した、陸前高田市海と貝のミュージアムのシンボルに位置づけられていた標本である。鯨類剥製としては日本最大の大きさで、大型標本であること、および脆弱であることから、その救出は国立科学博物館および岩手県立博物館で行われ、平成 23 年 6 月そのまま国立科学博物館つくば標本庫に移送され直接被災によって生じた被害の修復作業が行われた。

この剥製標本は、表面を FRP 補強樹脂コーティングされており、被災時に損傷したと思われる箇所が左胸部及び左尾鰭に大きく見られた。表面層 FRP 補強樹脂コーティングと剥製表皮表面の部位に泥砂を含んだ海水が浸水したと思われ、カビの発生が確認された。標本の安定化を図るため、ガス燻蒸による害虫駆除、内部に浸水した水分の強制乾燥、吊元ワイヤーロープ及び内部構造のレントゲン調査を行った。補修処理は、左側面の FRP 補強樹脂コーティングの除去、表皮及び内部のカビ洗浄除菌、吊元の金具補強を行った。

被災による損傷の補修は終わったが、標本の経時的疲労などにより標本自体が脆弱であり、相当に腐朽が進んでいる。陸前高田市の復興が進み、震災からの復興の象徴として、一本松とともに市民の心の支えとするには、数十年単位の寿命を想定する必要があり、そのためには標本自体の老朽化部分の補修措置を講じる必要がある。

1. 完了期限

平成 25 年 3 月 25 日

2. 作業内容

当該標本の現在の仮収納場所（国立科学博物館自然史標本棟 1F）には、すでに多数の標本が収蔵されているため、粉塵やカビ胞子の飛散などの可能性が高い補修作業は、外部に設定する作業場で行う。

(1) 標本の搬出

補修作業場への標本搬出

場所（搬出元）：国立科学博物館 つくば研究施設 自然史標本棟 1F

(2) 補修の実施

- ①表皮脆弱箇所の養生、樹脂コーティング不要部分の除去及び補強、カビの洗浄除菌処理
- ②下地脆弱については状態により芯材構造部分から適切な木材を使用し補強する。
欠損部が大きい場合は、ラス網張り・寒冷紗下地・和紙貼りと同等な処理を施す。
- ③表皮の補修、表皮の貼り付けには酢酸ビニル樹脂エマルジョン接着剤及び膠など適切な処置を施す。表皮の収縮を抑えるためにタッカーで仮縫製をし養生経過に注意する。
- ④表皮の欠損、縮み亀裂剥離による修復困難な部分は、表皮に近い色を用いなじませる。
- ⑤表皮の固定は、1液形水性ウレタン樹脂塗料（艶消し）吹付けを数回施し、乾燥による収縮を抑えると共に表皮の劣化を防ぐ。
- ⑥既存開口部、樹脂コーティングカット断面箇所の処理、その他必要に応じて監修者との協議の上作業を進めること。

(3) 作業工程の写真撮影を行い提出すること。

(4) 監修者による、作業完了時の検収を行い、是正事項については調整期間を設けすみやかに対処すること。

(5) 標本の搬入

補修作業完了後、保管場所へ標本搬入

場所：国立科学博物館 つくば研究施設 保管場所

(6) 燻蒸施工の実施

上記保管場所にて、害虫駆除ガス燻蒸施工を行う。

作業報告施工状況を書類提出し確認をとること。

3. 補則

この仕様書に定めのない事項については、必要に応じ別途協議のうえ定めるものとする。